

# 地エネ新エネ やっています



## 丹波焼専門の薪屋

### 名前【 】

- ① 篠山市の松山さんは、どのような仕事をされていますか？わかるところにマーカーで印をつけましょう。
- ② 丹波焼の薪(まき)に適しているのは、何の木ですか？  
[ ]
- ③ その木がなぜ適しているか、わかるところをマーカーで囲みましょう。
- ④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

松山 保さん (83) 篠山市

丹波焼を作る登り窯などの薪を専門に扱う薪屋をしています。丹波焼が盛んな篠山市今田町で私だけです。庭木剪定職人しながら15年ほど前に父がしていた仕事を引き継ぎました。

丹波焼の薪に適しているのは赤マツです。樹齢50年以上の脂っ気の多い木が一番いい。燃やすと温度が約1300度まで上がり、松やにがやきものいろいろな色合いを出します。

とりわけ、隣の加東市など播磨地域や三田市のマツは、堅くしまっていていい薪になる。しかし、マツ枯れでいいマツの確保が難しくなっています。

ほかの木では少し温度が足りません。ヒノキは800〜千度、スギは7、800度までで火持ちもしない。広葉樹はもっと温度が低い。

燃やすと高温になるマツは薪ストープやボイラーを痛めやすいので敬遠されています。一般の薪業者は里山の木を切った後、コナラなどの広葉樹だけを運び出し、マツは山にほったら

## 赤マツ林再生させたい

かしにされることが多い。もつたいない。マツもうまく流通するようになればいいんだが。昨年修復を終えた築120年という丹波焼産地最古の登り窯

の火入れには、約1万5千本の薪を供給しました。地域のシンボルを次代につないでいくには薪となる赤マツ林の再生も大事だと思う。赤マツとともにマツタケも復活できればいいですね。(辻本一好)

木の水分が減る冬を中心に木を切り出し、1年以上乾燥させた薪を約30軒の丹波焼の窯元に供給している。



修復された最古の登り窯に使う薪も加工した松山保さん＝篠山市今田町上立杭

NIEワークシート／小学高学年～中学生／  
国語、総合、朝NIE